

I 令和2年度疫学調査成績

1 肺がん発生状況

(1) 調査票回答率

調査を依頼した症例数(新潟市の施設検診を除く)は261例、回答数は249例、回答率は95.4%となっている。

表1 調査票回答率

調査票依頼数	回答数	回答率(%)	肺がん	その他
261	249	95.40	136	112

(2) 発見肺がん数

発見肺がん136例の内訳は、男84例、女52例となっている。

年代別にみると70歳代が72例で最も多くなっている。

表2-1 性・年齢階級別肺がん発見数

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	1	14	49	20	84
(%)	(0.0)	(1.2)	(16.7)	(58.3)	(23.8)	(100.0)
女	1	1	15	23	12	52
(%)	(1.9)	(1.9)	(28.8)	(44.2)	(23.1)	(100.0)
計	1	2	29	72	32	136
(%)	(0.7)	(1.5)	(21.3)	(52.9)	(23.5)	(100.0)

年代別の肺がん発見率は男女合計で加齢とともに上昇している。

表2-2 性・年齢階級別肺がん発見率(受診者10万対)

		40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
受診者数	男	2,956	3,741	17,113	35,875	14,359	74,044
	女	7,476	10,069	31,880	43,865	14,025	107,315
	計	10,432	13,810	48,993	79,740	28,384	181,359
発見肺がん数	男	0	1	14	49	20	84
	女	1	1	15	23	12	52
	計	1	2	29	72	32	136
がん発見率 (10万対)	男	0.0	26.7	81.8	136.6	139.3	113.4
	女	13.4	9.9	47.1	52.4	85.6	48.5
	計	9.6	14.5	59.2	90.3	112.7	75.0

(2) 発見肺がん数

発見方法別では、胸部X線検査が134例と最も多くなっている。

表3 発見方法別

	胸部X線	喀痰検査	両方	計
男	82	2	0	84
女	52	0	0	52
計	134	2	0	136
%	(98.5)	(1.5)	(0.0)	(100.0)

2 調査成績

(1) 手術状況

ア 治療内容

治療内容をみると手術例が85例と最も多くなっている。

表4 治療内容

	手術	化学療法	放射線治療	化学療法+ 放射線治療	その他の 治療	治療なし	不明	計
男	50	14	4	8	4	4	0	84
女	35	6	3	2	2	4	0	52
計	85	20	7	10	6	8	0	136
%	(62.5)	(14.7)	(5.1)	(7.4)	(4.4)	(5.9)	(0.0)	(100.0)

イ 手術術式

手術例85例のうち、肺葉切除術が65例と最も多くなっている。

表5 手術術式

	肺 全 摘 術	肺 葉 切 除	区 域 切 除	部 分 切 除	そ の 他	不 明	手 術 計	非 手 術	計
男	0	37	5	7	1	0	50	34	84
女	0	28	3	4	0	0	35	17	52
計	0	65	8	11	1	0	85	51	136
%	(0.0)	(76.5)	(9.4)	(12.9)	(1.2)	(0.0)	(100.0)		

(2)術前所見

ア 組織型

腺がんが56例と最も多くなっている。

表6 組織型

	扁平上皮がん	腺がん	大細胞がん	小細胞がん	その他	不明	計
男	19	29	0	10	6	20	84
%	(22.6)	(34.5)	(0.0)	(11.9)	(7.1)	(23.8)	(100.0)
女	5	27	0	1	1	18	52
%	(9.6)	(51.9)	(0.0)	(1.9)	(1.9)	(34.6)	(100.0)
計	24	56	0	11	7	38	136
%	(17.6)	(41.2)	(0.0)	(8.1)	(5.1)	(27.9)	(100.0)

イ 原発部位

右上葉が36例と最も多くなっている。

表7 原発部位

	右					左				不明	合計
	主気管支	上葉	中葉	下葉	不明	主気管支	上葉	下葉	不明		
男	0	25	5	21	1	0	18	8	3	3	84
女	0	11	3	13	1	0	12	7	3	2	52
計	0	36	8	34	2	0	30	15	6	5	136
%	(0.0)	(26.5)	(5.9)	(25.0)	(1.5)	(0.0)	(22.1)	(11.0)	(4.4)	(3.7)	(100.0)

ウ 発生部位

肺野型が113例と最も多くなっている。

表8 発生部位

	肺門型	肺野型	その他	不明	計
男	6	74	0	4	84
%	(7.1)	(88.1)	(0.0)	(4.8)	(100.0)
女	4	39	0	9	52
%	(7.7)	(75.0)	(0.0)	(17.3)	(100.0)
計	10	113	0	13	136
%	(7.4)	(83.1)	(0.0)	(9.6)	(100.0)

エ X線像

原発腫瘍型が79例で最も多くなっている。

表9 X線像

	無所見	原発 腫瘍型	原発 浸潤型	二次 変化型	胸水 貯留型	縦隔 浸潤型	縦隔リンパ 節腫脹型	その他	不明	計
男	2	49	9	0	2	0	1	5	16	84
女	2	30	3	0	0	1	0	0	16	52
計	4	79	12	0	2	1	1	5	32	136
%	(2.9)	(58.1)	(8.8)	(0.0)	(1.5)	(0.7)	(0.7)	(3.7)	(23.5)	(100.0)

オ X線腫瘍径

<3cmが41例で最も多くなっている。

表10 X線腫瘍径

	<2cm	<3cm	<5cm	5cm≦	不明	計
男	5	23	18	17	21	84
女	4	18	9	4	17	52
計	9	41	27	21	38	136
%	(6.6)	(30.1)	(19.9)	(15.4)	(27.9)	(100.0)

カ TNM分類

(ア)T-原発腫瘍

T1bが29例で最も多くなっている。

表11 原発腫瘍

	TX	T0	Tis	T1					T2			T3	T4	不明	計
				mi	a	b	c	不明	a	b	不明				
男	4	1	1	2	2	19	15	0	11	10	1	9	7	2	84
女	0	0	2	2	9	10	8	0	11	0	0	2	5	3	52
計	4	1	3	4	11	29	23	0	22	10	1	11	12	5	136
%	(2.9)	(0.7)	(2.2)	(2.9)	(8.1)	(21.3)	(16.9)	(0.0)	(16.2)	(7.4)	(0.7)	(8.1)	(8.8)	(3.7)	(100.0)

(イ)N-所属リンパ節

N0が87例で最も多くなっている。

	NX	N0	N1	N2	N3	不明	計
男	4	49	6	14	9	2	84
女	0	38	1	5	5	3	52
計	4	87	7	19	14	5	136
%	(2.9)	(64.0)	(5.1)	(14.0)	(10.3)	(3.7)	(100.0)

(ウ)M-遠隔転移

M0が108例で最も多くなっている。

	MX	M0	M1				不明	計
			a	b	c	不明		
男	6	64	4	2	5	0	3	84
女	0	44	1	0	4	0	3	52
計	6	108	5	2	9	0	6	136
%	(4.4)	(79.4)	(3.7)	(1.5)	(6.6)	(0.0)	(4.4)	(100.0)

キ 臨床病期

I A2期が28例で最も多くなっている。

表14 臨床病期

	潜伏癌	0	IA1	IA2	IA3	IA 1.2.3不明	IB	IIA	IIB
男	0	0	5	16	10	0	8	4	5
%	(0.0)	(0.0)	(6.0)	(19.0)	(11.9)	(0.0)	(9.5)	(4.8)	(6.0)
女	0	1	8	12	5	1	9	0	0
%	(0.0)	(1.9)	(15.4)	(23.1)	(9.6)	(1.9)	(17.3)	(0.0)	(0.0)
計	0	1	13	28	15	1	17	4	5
%	(0.0)	(0.7)	(9.6)	(20.6)	(11.0)	(0.7)	(12.5)	(2.9)	(3.7)
	IIIA	IIIB	IIIC	IVA	IVB	不明	計		
男	9	4	4	5	5	9	84		
%	(10.7)	(4.8)	(4.8)	(6.0)	(6.0)	(10.7)	(100.0)		
女	4	2	1	2	3	4	52		
%	(7.7)	(3.8)	(1.9)	(3.8)	(5.8)	(7.7)	(100.0)		
計	13	6	5	7	8	13	136		
%	(9.6)	(4.4)	(3.7)	(5.1)	(5.9)	(9.6)	(100.0)		

表15 臨床病期別治療内容

	0期	I A	I B	II A	II B	III A	III B	III C
無治療	0	1	1	0	0	1	0	0
手術	1	50	14	2	4	8	0	0
化療	0	0	0	0	0	1	5	2
放治	0	4	0	1	1	0	0	1
化+放	0	0	1	1	0	3	1	1
その他	0	2	1	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	57	17	4	5	13	6	5

	IVA	IVB	不明	計
無治療	0	0	5	8
手術	0	0	6	85
化療	6	6	0	20
放治	0	0	0	7
化+放	1	0	2	10
その他	0	2	0	6
不明	0	0	0	0
計	7	8	13	136

(3)術後試験(手術例)

以下は手術例85例での集計結果となっている。

ア 縦隔郭清

ND1が67例で最も多くなっている。

表16 リンパ節郭清度

	ND0	ND1	ND2a	ND2b	ND3 α	ND3 β	ND3 γ	不明	計
男	4	38	0	0	0	0	0	8	50
女	2	29	0	0	0	0	0	4	35
計	6	67	0	0	0	0	0	12	85
%	(7.1)	(78.8)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(14.1)	(100.0)

イ 主占拠部位

左上葉が25例で最も多くなっている。

表17 主占拠部位

	右					左				不明	合計
	主気管支	上葉	中葉	下葉	不明	主気管支	上葉	下葉	不明		
男	0	16	5	12	0	0	11	2	0	4	50
女	0	9	2	10	0	0	8	4	0	2	35
計	0	25	7	22	0	0	19	6	0	6	85
%	(0.0)	(29.4)	(8.2)	(25.9)	(0.0)	(0.0)	(22.4)	(7.1)	(0.0)	(7.1)	(100.0)

ウ 最大腫瘍径

<2cmが34例で最も多くなっている。

表18 最大腫瘍径

	<2cm	<3cm	<5cm	5cm≦	不明	計
男	17	15	9	4	5	50
女	17	12	3	3	0	35
計	34	27	12	7	5	85
%	(40.0)	(31.8)	(14.1)	(8.2)	(5.9)	(100.0)

エ 病理組織学的所見- pT、pN、pM

(ア)pT-原発腫瘍

T2aが13例で最も多くなっている。

表19 原発腫瘍

	TX	T0	Tis	T1					T2			T3	T4	不明	計
				mi	a	b	c	不明	a	b	不明				
男	1	2	0	0	5	16	7	0	7	4	0	6	2	0	50
女	0	0	0	7	4	10	3	0	6	2	0	2	1	0	35
計	1	2	0	7	9	26	10	0	13	6	0	8	3	0	85
%	(1.2)	(2.4)	(0.0)	(8.2)	(10.6)	(30.6)	(11.8)	(0.0)	(15.3)	(7.1)	(0.0)	(9.4)	(3.5)	(0.0)	(100.0)

(イ)pN-所属リンパ節

N0が68例で最も多くなっている。

表20 所属リンパ節

	NX	N0	N1	N2	N3	不明	計
男	2	41	3	4	0	0	50
女	1	27	3	4	0	0	36
計	3	68	6	8	0	0	85
%	(3.5)	(80.0)	(7.1)	(9.4)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

(ウ)p M-遠隔転移

M0が83例で最も多くなっている。

表21 遠隔転移

	MX	M0	M1				不明	計
			a	b	c	不明		
男	1	48	1	0	0	0	0	50
女	0	35	0	0	0	0	0	35
計	1	83	1	0	0	0	0	85
%	(1.2)	(97.6)	(1.2)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

オ 病期分類

IA2期が24例で最も多くなっている。

表22 病期分類

	潜伏癌	0	IA1	IA2	IA3	IA 1.2.3不明	IB	IIA	IIB
男	0	0	5	13	10	0	6	2	4
%	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(26.0)	(20.0)	(0.0)	(12.0)	(4.0)	(8.0)
女	0	1	8	11	2	1	8	0	0
%	(0.0)	(2.9)	(22.9)	(31.4)	(5.7)	(2.9)	(22.9)	(0.0)	(0.0)
計	0	1	13	24	12	1	14	2	4
%	(0.0)	(1.2)	(15.3)	(28.2)	(14.1)	(1.2)	(16.5)	(2.4)	(4.7)
	IIIA	IIIB	IIIC	IVA	IVB	不明	計		
男	5	0	0	0	0	5	50		
%	(10.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(100.0)		
女	3	0	0	0	0	1	35		
%	(8.6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(2.9)	(100.0)		
計	8	0	0	0	0	6	85		
%	(9.4)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(7.1)	(100.0)		

カ 組織型

腺がんが63例で最も多くなっている。

表23 組織型(手術痕)

	扁平上皮がん	腺がん	大細胞がん	小細胞がん	その他	不明	計
男	11	30	2	1	6	0	50
%	(22.0)	(60.0)	(4.0)	(2.0)	(12.0)	(0.0)	(100.0)
女	1	33	0	0	1	0	35
%	(2.9)	(94.3)	(0.0)	(0.0)	(2.9)	(0.0)	(100.0)
計	12	63	2	1	7	0	85
%	(14.1)	(74.1)	(2.4)	(1.2)	(8.2)	(0.0)	(100.0)

(4)根治度

ア 性別根治度

性別別の根治度集計は、下記のとおりになっている。

表24 根治度

	手術なし	完全切除	非完全切除	判定不能手術	非切除	不明	計
男	34	45	5	0	0	0	84
%	(40.5)	(53.6)	(6.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)
女	17	30	3	1	0	1	52
%	(32.7)	(57.7)	(5.8)	(1.9)	(0.0)	(1.9)	(100.0)
計	51	75	8	1	0	1	136
%	(37.5)	(55.1)	(5.9)	(0.7)	(0.0)	(0.7)	(100.0)

イ 病期別根治度

病期別の根治度集計は、下記のとおりになっている。

表25 病期と根治度

	完全切除	完全切除率	非完全切除	判定不能手術	非切除	不明	計
0	1	(100.0)	0	0	0	0	1
I A	49	(98.0)	0	1	0	0	50
I B	10	(71.4)	3	0	0	1	14
II A	2	(100.0)	0	0	0	0	2
II B	2	(50.0)	2	0	0	0	4
III A	6	(75.0)	2	0	0	0	8
III B	0	-	0	0	0	0	0
III C	0	-	0	0	0	0	0
IV A	0	-	0	0	0	0	0
IV B	0	-	0	0	0	0	0

ウ 術前・術後病期

表26 術前・術後別病期

	術前病期	術後病期
潜伏期	0	1
0	1	1
I A	50	50
I B	14	11
II A	2	3
II B	4	6
III A	8	10
III B	0	2
III C	0	0
IV A	0	0
IV B	0	0
不明	6	1
計	85	85

II 発見肺がんの追跡調査

1 発見肺がんの予後

昭和63年から平成29年度(新潟市は昭和63年度から平成11年度)までに発見された肺がんについて、令和5年12月31日時点で予後調査をした結果、下記のとおりとなっている。

表1 発見胃がんの予後

令和5年12月31日時点

	消息判明				消息不明		計
	生存	原病死	他病死	死因不明	転出	不明	
数	2,810	1942	486	954	88	9	6,289
%	(44.7)	(30.9)	(7.7)	(15.2)	(1.4)	(0.1)	(100.0)

2 累積生存率

他病死、死因不明を含む5年生存率は、下記のとおりである。

表2-1 累積生存率(全死亡/全症例)

	全体	手術	非手術
生存数	6,289	3,897	2,392
死亡数	3,381	1,369	2,012
3年生存率	(58.2)	(77.3)	(27.0)
5年生存率	(48.1)	(66.7)	(17.8)

表2-2 累積生存率(原病死/全症例)

	全体	手術	非手術
当初生存数	6,289	3,897	2,392
死亡数	1,942	685	1,257
3年生存率	(74.0)	(87.3)	(52.3)
5年生存率	(69.7)	(83.1)	(48.1)

3 発見方法別生存率

他病死、死因不明を含む5年生存率を発見方法別にみると、下記のとおりである。

表3-1 発見方法別生存率(全死亡/全症例)

	X線	喀痰
当初生存数	5,772	338
死亡数	3,099	153
3年生存率	(58.0)	(69.8)
5年生存率	(48.0)	(59.2)

表3-2 発見方法別生存率(原病死/全症例)

	X線	喀痰
当初生存数	5,772	338
死亡数	1,761	99
3年生存率	(74.1)	(79.6)
5年生存率	(70.0)	(72.9)

4 病期別生存率

他病死、死因不明を含む5年生存率を病期別にみると、下記のとおりである。

表4-1-1 病期別生存率(全死亡/全症例) ※手術例・非手術例共に臨床病期で集計

	0期	I期	II期	III期	IV期
当初生存数	30	3,847	344	1,085	870
死亡数	8	1,328	222	889	805
3年生存率	(83.3)	(78.4)	(50.3)	(28.8)	(14.3)
5年生存率	(76.6)	(67.6)	(36.9)	(19.3)	(8.7)

表4-1-2 病期別生存率(全死亡/全症例)

	0期	I期	II期	III期	IV期
当初生存数	25	3,397	441	1,337	956
死亡数	9	1,033	265	1,063	868
3年生存率	(80.0)	(82.1)	(54.4)	(32.4)	(16.5)
5年生存率	(68.0)	(72.0)	(39.8)	(22.2)	(10.8)

表4-2 病期別生存率(原病死/全症例) ※手術例は術後病期、非手術例は臨床病期で集計

	0期	I期	II期	III期	IV期
当初生存数	25	3,397	441	1,337	956
死亡数	5	439	127	709	565
3年生存率	(84.0)	(91.5)	(77.1)	(52.5)	(45.0)
5年生存率	(80.0)	(87.8)	(71.3)	(47.5)	(41.8)

図1-1 肺がん累積生存率(全死亡/全症例)

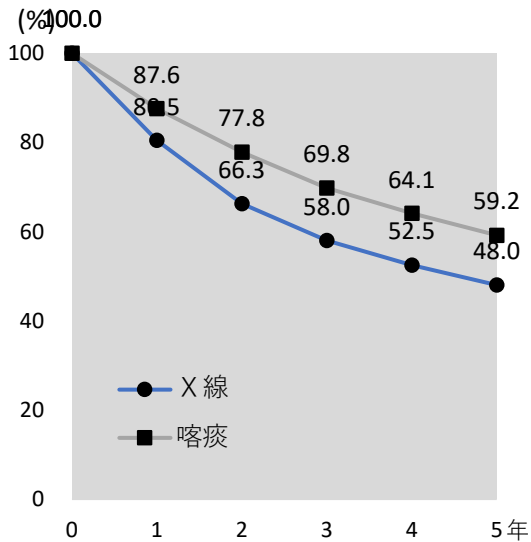


図1-2 肺がん累積生存率(原病死/全症例)

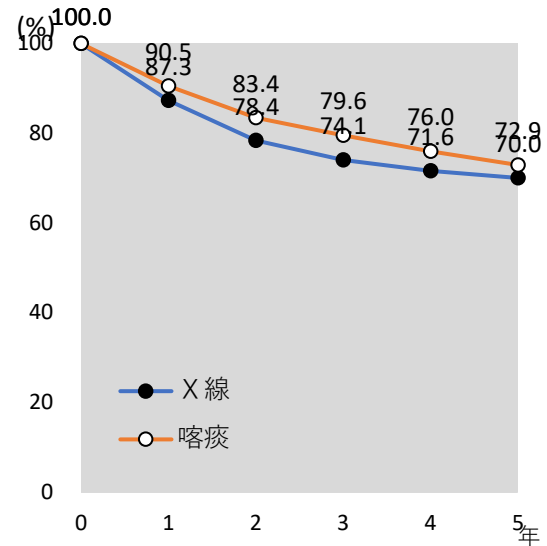


図2-1 発見方法別累積生存率(全死亡/全症例)

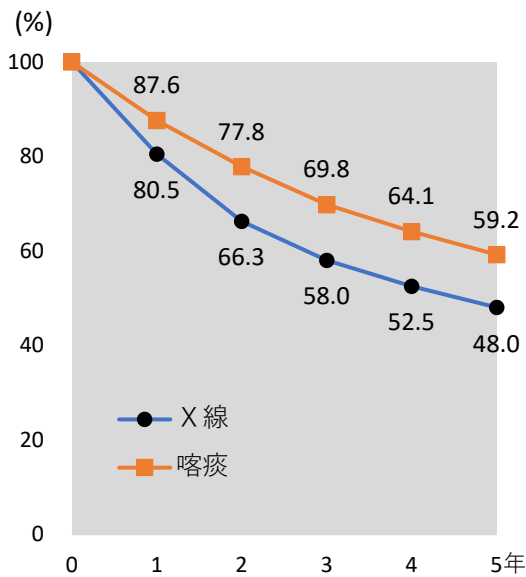


図2-2 発見方法別累積生存率(原病死/全症例)

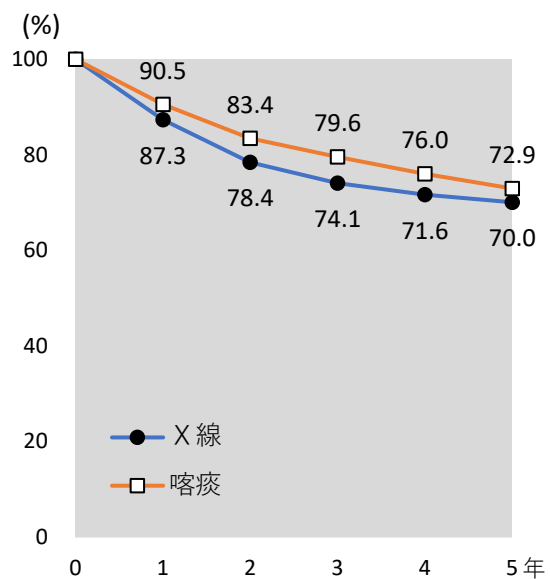


図3-1 病期別累積生存率(全死亡/全症例)

※手術例、非手術例共に臨床病期で集計

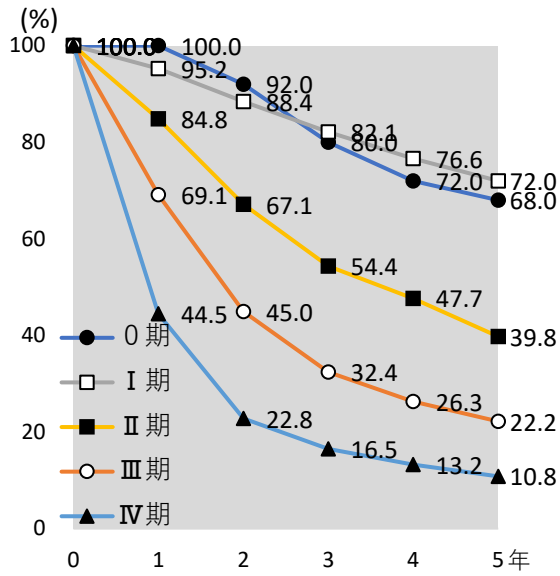


図3-2 病期別累積生存率(全死亡/全症例)

※手術例は術後病期、非手術例は臨床病期で集計

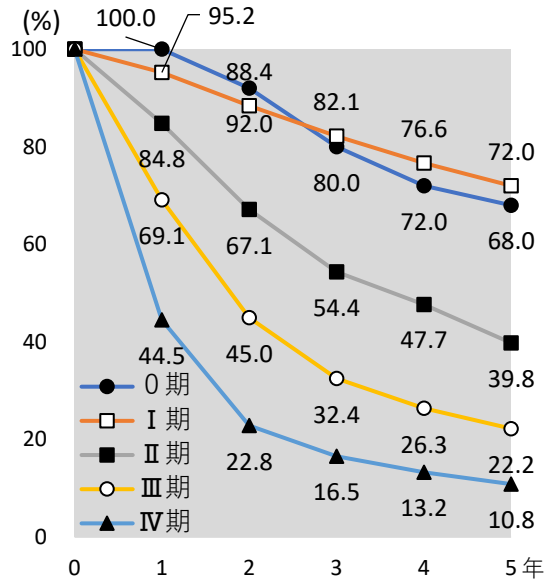


図3-3 病期別累積生存率(原病死/全症例)

※手術例、非手術例共に臨床病期で集計

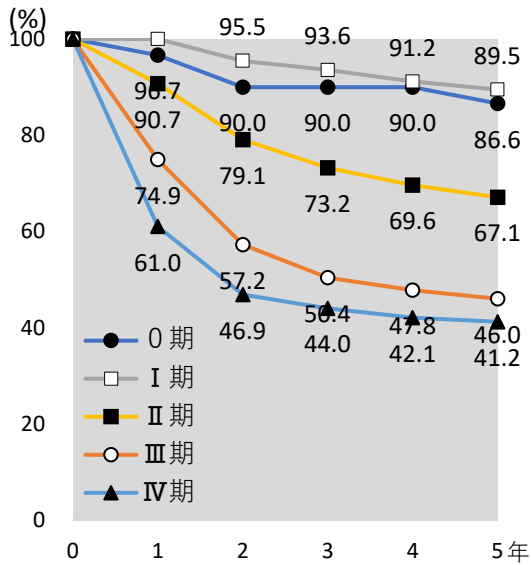


図3-4 病期別累積生存率(全死亡/全症例)

※手術例は術後病期、非手術例は臨床病期で集計

